女子バスケットボール部　卒業生からのメッセージ

「ラクロス　U19　日本代表」

私は 66 期生の野尾明日佳です。
今大学に通っていて一番感じる事は、高校時代はすごく大事な時期だという事です。
私は高校時代女子バスケットボール部に所属しており、主将を務めていました。今振り返ると、高校時代は今まで生きてきた中で一番苦しく、辛かった時期でした。朝早くから夜遅くまで、土日も部活動に取り組み、勉強をおろそかにせず、文武両道に励まないといけない。部活が上手くいかなくてすごく逃げ出したい時もありました。でも逃げ出さずにその壁と向き合って試行錯誤しながら乗り越えた経験があるからこそ、今壁にぶつかっても高校時代の経験が糧になっているので、頑張れます。高校までは規則やルールが厳しい代わりに間違った方向に行けば、手を貸してくれたり、正してくれる大人がいます。しかし大学や社会にでると自由になる分、責任というものがついてきます。苦しいことから逃げて何もしなくても、あるいは頑張ることも自由。その自由という場所に置かれた時に、自分の道が広がり、正しい選択が出来るか否かは高校時代の自分の行動で変わってくると今すごく感じています。
私は大学からラクロスを始め、関西選抜、また去年 19 歳以下の日本代表に選ばれ、世界大会に行きました。今年はまた日本代表の候補選手として練習会に参加します。日本代表になれたのも、新たな事に挑戦する気持ち、厳しい選考で苦しい事から逃げなかった結果だと思っています。それが出来たのも高校時代に培った経験や考え方があるからだと思っています。そんな高校時代を私は誇りに思っています。
だから、今の鳴高生には、今後の自分の為にも苦しい事があっても逃げずに前向きにその壁にぶつかって乗り越えてほしいです。胸を張って誇れる高校生活を送って下さい。

彼女が女子バスケットボール部キャプテンをつとめた平成 25 年度は兵庫県 準優勝となり、大分インターハイに参加しました。

壁というのは、できる人にしかやってこない。
越えられる可能性がある人にしかやってこない。
イチロー